

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏名	杉本 卓也
研究課題	オンラインとリアル（オンサイト）の並列実施によるプロジェクト管理 ー学長プロジェクト 4 に係る学生生活動・組織を対象にー				
研究キーワード	プロジェクト管理、学生 団体、自然エネルギー 100%大学	当年度計画に対す る達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	7. エネルギーをみんな にそしてクリーンに	12. つくる責任 つかう 責任	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期の打ち水では、コロナ禍を受け 2020 年度の実施実績が無かったため学生間で経験の共有や引継ぎが困難だったものの、teams 等を用いてスタッフ説明会を実施するなどオンラインを利用した準備を経て、打ち水当日までのプロジェクト管理を実施することが出来た。 ・秋学期にはキャンパスでの省エネの参考事例として、上田高校（長野県）の教室断熱化のワークショップへ参加した。キャンパスの教室全てを一度に断熱化することは現実的ではないが、一部教室の断熱化を目指し活動企画の準備を進めている。2021 年度末（3 月）には、キャンパス内で築年数の多い建物（2 号館や 3・4 号館など）の教室点検を行った。2022 年度も引き続き検討を進めていく。 ・上記のほか、2020 年度に引き続き同窓会冊子「きずな」へ省エネ行動に関する記事寄稿を行った。2021 年度では、36 号（2021 年 6 月）以降の発刊に合わせて、計 6 編の記事を寄稿した。記事作成から入稿、初稿戻し等の各段階を滞ることなく完遂することができた。2021 年度末では 39 号（2022 年 6 月発行予定）の記事も既に入稿している。 ・2021 年 9 月の環境科学会の年次大会において企画シンポジウムを実施し、その中で本学の自然エネルギー 100%大学の取り組みと併せて、学生団体の SONE の活動紹介を行った。その際には、コロナ禍でのオンラインの活動におけるプロジェクト管理の方策や、活動に際して学生のモチベーション管理について議論した。 <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉商科大学学長プロジェクト（2022 年 3 月）『SDGs と大学ー自然エネルギー100%大学の挑戦ー』；6 章 6ー3 執筆。学長プロジェクト書籍発行実行委員会（学長 PJ4 担当者として）。 <p>【学会発表等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉本卓也・手嶋進（2021）「遠隔状況下における SDGs 活動の展開」：環境科学会 2021 年会企画シンポジウム「学生による SDGs 活動の地域での認知拡大と深化」、環境科学会 2021 年会講演要旨集，pp.160-161，オンライン開催 <p>3. 主な経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記研究の遂行、および研究成果発表にかかる費用として、個人研究費を使用した。 <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 					
（本文は 2 ページ以内にまとめること）					